

卒の業―尾崎の豊―

梗概

転校生の飯田直哉（14）は生まれてこの方、車から降りたことがない。

学校内でも車生活を送る直哉は、近く行われる体育祭のために100メートル走のタイムを計り、リレーの選手に選ばれる。

順風満帆な学校生活も束の間、直哉はテストのカンニングをしたことから八重樫陽向（14）に目をつけられる。

陽向は学級委員長である一方、伝説のロック歌手尾崎豊のファンであり、「自由」を求めてタバコをふかす不良生徒だった。

陽向に振り回される直哉は、ある日、寝坊で遅刻した拍子に教師を轢き殺してしまう。

学校側は直哉が起こした事故を内々に収めようとするも、遺族の意向で警察沙汰になってしまう。

そんな中で迎えた体育祭本番。

警察に取り囲まれ、逮捕待ったなしの直哉へ、陽向は「仕組まれた自由を打ち破れ」と助言する。

戸惑う直哉だったが、リレーで他の選手をごぼう抜きする中で、自分の活躍は車のおかげであることに気づく。

仕組まれた自由の意味を知った直哉は大人たちの作ったルールから抜け出し、本当の自由を求めて校舎の外へと駆け抜けてゆく。

《登場人物》

飯田直哉（14） 中学二年生

八重樫陽向（14） 中学二年生

佐知子（40） 直哉の母

北沢（30） 直哉の担任

今井（36） 体育教師

加藤（15） 中学生三年生

男子 1、2

刑事 1、2

社会科教師

数学教師

少年

※本作はPOV（主観映像）で進行する物語である

※作中に挿入されるテロップ画面とライブ映像を除き、本作の全てのシーンは、主人公の車に設置されたドライブレコーダーの映像によって構成される

※車内のシーンを始め映像に映らない描写がト書きの一部にあるが、読みやすさの面から便宜的に記載した

○通学路（朝）

飯田直哉（14）の運転する車（以降、飯田直哉とこの車とともに「直哉」と表記する）が走っている。

歩道には登校する中学生たちの姿。

○中学・校門前

直哉、ウイinkerを出す。

車内にウイinkerの音が響く。

直哉、校門へ入っていく。

○同・校舎前

直哉、やってくる。

昇降口に北沢（30）が立っている。

○同・廊下ノ階段

直哉、北沢の後についてゆく。

階段に段差をなくすための板が敷かれて
いる。

直哉、ゆっくりと板の上を登っていく。

○同・2年△組教室前

教室のドアが取り外されている。

北沢、教室へ入っていく。

直哉、ウイinkerを出す。

直哉、壁にぶつからぬよう、慎重に教室
へと入る。

○同・2年△組教室

生徒たち、机に座っている。

直哉、入ってくる。

直哉、席に着くために慎重にバックする。

北沢、直哉の後ろに立って誘導する。

北沢「一回切り返そう」

直哉、切り返す。

直哉、ゆっくりとバック。

北沢「ストップ。もう一回」

直哉、もう一度切り返す。

生徒たち、その様子を見ている。

北沢「オッケー。そのままバックで」

直哉、どうにか席に着く。

北沢、ドアをノックする。

直哉、窓を開ける。

北沢「話をするから窓は開けといてくれ」

北沢、教壇へ立つ。

北沢「転校生の飯田だ。みんな仲良くするよ

うに」

生徒たち「（頷く）」

北沢「飯田、自己紹介頼む」

直哉「（ぼそり）…飯田…直哉です」

×

×

×

社会科教師、黒板の前で授業している。

直哉、聞いている。

社会科教師「豊臣秀吉が1582年に行った
太閤検地によって作物の収穫量の基準が
全国で統一され、従来の検地では把握でき
なかった生産高を正確に…」

×

×

×

車内に乃木坂の曲が流れている。

給食を手にした八重樫陽向(14)、直哉の

正面からやってくる。

陽向、ドアをノックする。

直哉、窓を開ける。

陽向「はい。給食」

陽向、直哉に給食を手渡す。

直哉「…どうも」

陽向「(曲を聞いて) 乃木坂、好きなんだ」

直哉「え、あっ」

直哉、慌てて曲をとめる。

陽向「その曲いいよね。私も好き」

直哉「…」

陽向「あ。私八重樫陽向。クラスの学級委員長をしてて、席は飯田君の隣。よろしく」

直哉「(ぼそり) …よろしく」

陽向「早くクラスに馴染めるといいね」

陽向、去っていく。

北沢、やってくる。

北沢「飯田。転校してきたばかりで悪いんだが、来週体育祭があつてな。今日の昼休み、100メートル走のタイムを計らせてくれ」

○同・校庭

直哉、スタート地点にいる。

ゴール前で陽向がストップウォッチをもって立っている。

直哉、エンジンを吹かす。

北沢、かけ声をかける。

北沢「位置について、よいドン！」

直哉、フルスロットルで疾走。

あっという間にゴール。

○同・教室

生徒たち、小テストをしている。

数学教師、見回っている。

直哉、答案用紙を見て、

直哉「 $4(3x-2x) \therefore$ あー。わかんね」

直哉、サイドミラーを動かす。

静かな室内に、ウィーンという機械音が響く。

以下、電子サイドミラーで撮影されたド
ラレコ映像に切り替わる。

獲物を狙うように上下左右に動くサイド
ミラーの映像。

映像が近くの生徒の答案用紙を捉える。
ズームアップする映像。

答案用紙に「4x」の文字が映し出される。

電子サイドミラーの映像、終わり。

直哉「4x」

直哉、答えを書き込む。

直哉「∴底辺6cm、高さ8cmの三角形の面積を求めなさい」

直哉、またサイドミラーを動かす。

再び室内にウィーンという音が響く。

以下、再び電子サイドミラーで撮影されたドラレコ映像に切り替わる。

上下左右にぐりぐり動くサイドミラーの映像。

と数学教師、近づいてくる。

直哉の声「やべ」

サイドミラーの映像、おとなしくなる。

数学教師、去っていく。

直哉、ほっとため息をつく。

サイドミラーの映像、動き始める。

映像が隣の席を捉える。

次の瞬間、サイドミラーをガン見する陽向の姿が映し出される。

電子サイドミラーの映像、終わり。

数学教師「はいそこまで」

生徒たち、手をとめる。

数学教師「後ろの席の人、集めて」

×

×

×

放課後。

帰り支度をする生徒たち。

陽向、直哉の前からやってくる。

陽向、ノックする。

直哉、窓をあける。

陽向「（笑顔で）数学の小テストどうだった？」

直哉「…まあ」

陽向「中、入ってもいい？」

直哉「…あ、うん」

直哉、ドアのロックを解除する。

陽向、ドアを開けて車内に入る。

陽向「いいなあ。教室より涼しい」

直哉「…エアコンつけてるから」

陽向「…ね。なんかいうことない？」

直哉「え？」

陽向「（真顔で）なんか私にいうことない？」

直哉「…え？」

陽向「みてたでしょ。ミラーで」

直哉「（口ごもる）…いや、え？」

陽向「私の答案用紙」

直哉「いや、みてない」

○教室（回想）

直哉、小テストをしている。

直哉、サイドミラーを動かしている。

直哉、サイドミラー越しに陽向と目が合う。
う。

直哉「やっべ。目が合った」

○（戻って）教室

陽向「飯田君。私と目が合って、慌てて逸らしたじゃん」

直哉「：いや、でも、みてない」

陽向「先生にいうよ。飯田君が私の答案用紙をミラーで覗き見してましたって」

直哉「：みてないから」

陽向、ドアを開けて降りる。

陽向、北沢のもとへいく。

陽向「先生！ 飯田君が：」

直哉、クラクションを鳴らす。

○同・廊下

直哉、徐行している。

助手席に陽向が乗っている。

直哉の正面で、男子ハ、ふざけて男子ハの後ろからスライディングタックルをします。

男子ハ、尻餅をつく。

男子Ⅰ「（にやりと笑う）」

男子Ⅱ「（男子Ⅰへ）おい！」

男子ⅠとⅡ、じゃれ合う。

陽向「…男子って愚かな生き物だね」

直哉「…」

陽向「今から行きたい場所があるの」

○車道（夕）

直哉、車道を走っている。

陽向「なんか曲かけて」

直哉「…」

直哉、カーオーディオをいじる。

乃木坂46の曲が流れる。

陽向「（きっぱり）乃木坂以外で」

直哉「え。でも乃木坂好きだって」

陽向「（遮って）群れてる奴ら、嫌いだから」

直哉「…いや、乃木坂しかない」

陽向「尾崎は？」

直哉「オザキ？」

陽向「知らないの？」

直哉「…」

陽向「（「卒業」を口ずさむ）行儀よく真面目
なんてできやしなかった。夜の校舎窓ガラ
ス壊して回った」

直哉「…？」

○尾崎豊のライブ映像

1984年。秋田市文化会館（小ホール）。

ステージ上で尾崎豊（19）がピアノの鍵
盤を弾き、「卒業」を熱唱している。

卒業

作詞作曲 尾崎豊

行儀よくまじめなんて出来やしなかつ
た

夜の校舎窓ガラス壊してまわった
逆らい続けあがき続けた
早く自由になりたかった

信じられぬ大人との争いの中で

許しあい いったい何 解りあえただろう
うんざりしながら それでも過ごした
ひとつだけ解ってたこと

この支配からの 卒業

○車道（戻って）

陽向「尾崎は昭和を生きた伝説のロック歌手
で、若者のシンボルの存在。乃木坂しか聞
かないからカンニングなんかするんだよ」

直哉「…いや、関係ないし」

カーナビから以下の音声。

音声「400メートル先、八王子交番前を左折
です」

直哉「（ぼそりと）八重樫さんが行きたいって
いったところ。ここから二時間以上かかるん
だけど」

陽向「そうなんだ（と受け流す）」

直哉「いや、往復で四時間かかるから、帰
りが遅くなる」

陽向「高速乗ったらいいじゃん」

直哉「乗ったことない」

陽向「なんで？」

直哉「親がまだ早いつて」

陽向「ふーん。飯田って真面目なんだ」

直哉「…」

×

×

×

陽向、尾崎の「卒業」のフレーズを口ず

さんでいる。

直哉「…やばい。ガソリンなくなる」

陽向「（口ずさむ）逆らい続け、あがき続けた、

早く自由になりたくて…」

直哉「ねえ。ガソリンがもたない」

陽向「スタンドで入れていいよ」

直哉「いや、俺、入れられない」

陽向「え。じゃあいつもどうしてるの？」

直哉「親とかが」

陽向「（軽蔑して）ママに入れてもらってんの？」

直哉「（むっとし）別に母親とは限らないし」

陽向「じゃあパパ？」

直哉「俺んち、父親いないから」

陽向「ママじゃん」

直哉「…」

○ガソリンスタンド

直哉、セルフ給油機の前に停まる。

直哉「…お願い」

陽向「ガソリンなんか入れたことない」

直哉「機械の説明聞けば大丈夫だと思う」

陽向「…めんどくせえな」

陽向、ドアを開けて外に出る。

陽向、乱暴にドアをしめる。

×

×

×

陽向、車内に戻ってくる。

陽向「入れた」

直哉「…ちゃんと給油タンクのフタしめてく

れた？」

陽向「しめた」

直哉「カチツというまで」

陽向「（イライラして）しめたっていったんだろ」

直哉「危ないから」

陽向「しつこい人嫌い」

直哉「…窓、拭いてほしい」

陽向「は？」

直哉「…」

陽向「全然汚れてないじゃん」

直哉「でも、いつもそうしてるから」

陽向「（舌打ち）」

×

×

×

陽向、不機嫌そうにフロントガラスを拭いている。

○車道（夜）

すっかり日が暮れている。

直哉、走っている。

陽向、タバコを取り出す。

陽向、ライターでタバコに火をつける。

車内にモクモクと煙が漂う。

直哉「え？」

陽向「(タバコをふかす)」

直哉「え、何してんの？」

陽向「ん？」

直哉「いや、タバコ(とむせる)」

陽向「飯田も一本吸う？」

直哉「いや、中学生がタバコとかって」

陽向「(煙を吐き出す)」

直哉「(むせる)」

陽向「ね。知ってた？」

直哉「∴？」

陽向「ルールを守ることは、大人たちの都合に従うってことなんだよ？」

直哉「∴」

陽向、案内標識を見上げる。

陽向「あ。桜木町だ。目的地そろそろじゃない？」

○横浜みなとみらい・夜景の見える場所（夜）

直哉、車内で待機している。

目の前で、陽向、夜景をバックに自撮り棒を持って立っている。

陽向、笑顔のショット。

陽向、表情を変えてもう一枚。

陽向、もう一枚。

直哉「（あくびする）」

○飯田家・ガレージ（翌日・朝）

直哉、大慌てでエンジンをかける。

直哉「やぺ。寝坊した」

直哉、ガレージから飛び出す。

母佐知子（40）、走ってやってくる。

佐知子、直哉の前に立ちふさがる。

佐知子、ドアを開ける。

佐知子「…なんかタバコ臭くない？」

直哉「なんだよ。急いでるんだ」

佐知子「水筒、忘れてるよ。ポカリ入ってる

から（と水筒をわたす）」

直哉、水筒を受け取る。

直哉、飛び出す。

○通学路

直哉、飛ばしている。

○中学・校門

直哉、猛スピードで入ってくる。

○同・廊下

直哉、フルスロットルで疾走する。

曲がり角から体育教師の今井（36）が現れる。

直哉、出会い頭に今井とぶつかる。

今井、吹き飛ぶ。

ドラレコの衝撃閏知音が鳴る。

音声「イベント録画を開始しました」

○同・教室

直哉、やってくる。

直哉、フロントガラスが割れており、血がついている。

教室内、直哉を見てあ然とする。

○同・保健室

直哉、保健の先生にフロントガラスを手当されている。

校庭で体育祭の練習が行われている。

○同・教室

直哉、フロントガラスがビニールテープで補修されている。

北沢、直哉の前にやってくる。

北沢、ドアのノックする。

北沢「（ちょっといいか？）」

直哉、ドアのロックを解除する。

北沢、車内に入る。

北沢、ドアを閉める。

北沢「いい知らせと悪い知らせがある」

直哉「…」

北沢「どっちから話そう」

直哉「…」

北沢「いい話はだな、今度の体育祭、お前にリレーの選手を任せることにした。嬉しいか」

直哉「…はい」

北沢「悪い知らせは、今井先生が先ほど病院で息を引き取られた」

直哉「…」

北沢「飯田。廊下は走ったらダメだろ」

直哉「…でも、スピードはそんなに出てませんでした」

北沢「今井先生のご家族の方が表沙汰にするかどうか考えているそうだ。学校としてはなるべく音便にすませるように頼んでみるけれど、問題になるかもしれない。そのつもりでいるように」

直哉「…はい」

○同・昇降口（放課後）

下校する生徒たちの姿。

直哉、徐行している。

陽向、直哉の前にやってくる。

陽向、ドアをノックする。

直哉、無視して徐行している。

陽向、直哉の前に立ちはだかる。

直哉、とまる。

直哉、窓を開ける。

直哉「（むすっと）…何の用？」

陽向「（笑顔で）乗せて」

直哉「…」

陽向「お願い（と両手を合わせる）」

直哉、ドアのロックを解除する。

陽向、車内に入る。

陽向、ドアをしめる。

陽向「（冷めた声で）今井の奴、おっ死んだんだって？」

直哉「…」

陽向「飯田、意外に役に立つじゃん」

直哉「え？」

陽向「あの体育教師、前から嫌いだったんだよね。悪い先生じゃないんだけど。担任の北沢と違って小児性愛者じゃないし」

直哉「（驚く）え、担任って」

陽向「気づかない？ 北沢、話するときいつも女子の胸ばっかみてるよ。それが理由で教師免許を取ったんだろうね」

直哉「…」

陽向「北沢に比べて今井は教師としてちゃんとしてたって感じ。面倒見もよかったし、教え方もうまかった」

直哉「じゃあなんで…」

陽向「（きっぱり）顔が生理的に無理」

直哉「…」

○斎場（数日後）

祭壇に今井の遺影が飾られている。

直哉と生徒たち、遺影を見つめている。

直哉のフロントガラスはすっかり修復されて
れている。

陽向、祭壇の前で弔辞を読んでいる。

陽向「（泣きながら）優しくて頼もしい今井先生
のことがみんな大好きでした」

直哉「…」

陽向「先生が楽しみにしていた体育祭はみんな
で力を合わせ、一生懸命頑張ります。先生、
天国から見守っていてください」

周りの女子たち、泣き出す。

直哉、涙の代わりにウォッシュ液を出
してフロントガラスを濡らす。

直哉、ワイパーでウォッシュ液を拭う。

ドアが開く。

母佐知子、車内に入ってくる。

佐知子「飲み物買ってきた」

佐知子、ドアをしめる。

佐知子、直哉にジュースを渡す。

直哉「…これファンタオレンジなんだけど」

佐知子「あんたそれがいいっていったでしょ。

お母さんはお水にしといた」

直哉「いや、俺ファンタグレープっていった

じゃん」

佐知子「どっちでも変わんないじゃない」

直哉「…」

直哉、渋々ジュースを飲む。

佐知子「あんた、お線香の代わりにハザード

焚いとけば」

直哉「いいよ」

佐知子「焚いときなって」

直哉、ハザードランプをつける。

車内にハザード音が響く。

佐知子「ハイビームも」

直哉「（気が乗らない）いいよ」

佐知子「いいからやっときなさいって」

直哉、遺影へハイビーム。

今井の遺影が眩い光に照らされる。

○斎場・外

生徒たちが見守る中、出棺する。

霊柩車、クラクションを鳴らす。

直哉、つられてクラクションを鳴らす。

○帰り道（夕）

直哉、走っている。

助手席に佐知子。

車内に乃木坂の曲が流れている。

直哉「（ため息）」

佐知子「なによ、ため息ついて」

直哉「…」

佐知子「大丈夫よ。事故のことなら。相手の

ご家族の方にはお母さんが頭下げてちゃ

んと謝ったから」

直哉「…」

佐知子「なんだろ、あれ？」

と助手席の窓の外を見る。

佐知子「橋の上にたくさん人が立ってて、な

んかスマホで撮ってる」

直哉「どこ？」

佐知子「あー。夕日だ！ みんな夕日撮ってるんだ。うわあ。きれいな夕日（と感動する）」

助手席の窓の外に夕日。

佐知子「あんたは見ちゃダメよ。よそ見しちゃ危ないから」

直哉「…」

佐知子「すごい。太陽の周りに輪っかができてる。珍しい。直哉。すごいよ、輪っかが光ってる」

直哉「…」

佐知子「こんなきれいな夕日初めて見た」

直哉、曲のボリュームをあげる。

○通学路（数日後・朝）

直哉、登校している。

○同・教室

直哉の前に北沢がやってくる。

直哉、ドアのロックを解除する。

北沢、ドアを開けて車内に入る。

北沢「飯田。悪い知らせだ」

直哉「…」

北沢「今井先生のご家族が警察に被害届を出したそうだ。近く警察のひとがお前の家にくるかもしれん」

直哉「（あ然）え、そんな…」

北沢「…」

直哉「先生、穏便に済ませてくれるっていったじゃないですか」

北沢「…すまん」

直哉「生徒を守るのが先生の仕事じゃないんですか？ 先生、何とかしてくださいよ」

北沢「…元はといえばお前の不注意が招いた事故だ」

北沢、ドアを開け、降りる。

直哉「（かっとなって）ロリコンが調子こくなくや！」

○同・廊下

直哉、徐行している。

男子㊦が前を歩いている。

直哉、当てつけで男子㊦の尻をフロント部分で小突く。

男子㊦、衝撃で尻餅をつく。

男子㊦「(直哉へ) おい！」

○同・教室（放課後）

生徒たちが帰り支度をしている。

黒板にチョークで「明日は体育祭」「絶対優勝！」などと書かれている。

陽向、直哉の前にやってくる。

直哉、無視してエンジンをかける。

陽向、窓を叩く。

直哉、そのまま発進する。

○同・昇降口

直哉、徐行している。

陽向、直哉の前に立ちふさがる。

直哉、ブレーキをかける。

陽向、カバンからCDを取り出して直哉に見せる。

直哉、窓を開ける。

陽向「飯田君に渡したいものがあるの。乗せて」

直哉「なに？」

陽向「乗せてくれたら教えてあげる」

直哉「…」

直哉、ドアのロックを解除する。

陽向、ドアを開けて車内に入る。

陽向、ドアをしめる。

陽向「（嘲笑し）逮捕されるってどんな気持ち？」

直哉「…出ていけ」

陽向「刑務所には壮絶なイジメとかあるんだって。飯田って刑務所入ったら絶対いじめられるタイプだよ」

直哉「（むっとして）だいたいこうなのは誰のせいだよ。横浜なんかいかなきゃ寝坊しなかった」

陽向「先生を轢き殺したの、人のせいにするんだ」

直哉「…」

陽向「はい。これ」

と直哉にCDを差し出す。

直哉「…？」

陽向「尾崎のCD。飯田に貸してあげる」

直哉「いいよ。興味ないし」

陽向「自由になりたくないの？」

直哉「…自由？」

陽向「（ぽつりと）ルールという言葉でこんな狭い場所に君や私を閉じこめた大人たちを、神様は決して叱ってくれない」

直哉「…え？」

陽向「飯田。一服したいからウチまで送ってって」

○飯田家・ガレージ（夕）

シャッターが開け放たれている。

直哉、電話している。

車内に乃木坂の曲が流れている。

佐知子の声「もしもし。なに？」

直哉「夕飯。まだ？」

佐知子の声「今カレー作ってるところだから、

もうちょっと待ってて」

直哉「腹減った。あと何分？」

佐和子の声「そんなのわかんないわよ」

直哉「カレーこっち持ってきて」

佐和子の声「リビングで食べればいいじゃない

い」

直哉「持ってきてっていったからね」

直哉、電話を切る。

直哉「（苛立ち、ため息を吐く）」

直哉、乃木坂の曲をとめる。

直哉、乃木坂のCDを取り出し、尾崎

のCDを入れる。

尾崎の「卒業」のイントロが流れる。

直哉、イントロをじっと聞いている。

とガレージの前にパトカーが停まる。

直哉「（気づいて）え」

パトカーから刑事「、」が降りてくる。

二人、ガレージへと向かって歩いてくる。

直哉「げ。マジか」

二人、直哉の前までくる。

刑事「、直哉に警察手帳を見せる。

刑事「、ドアをノックする。

直哉、じっとしている。

刑事「（開けなさい）」

直哉、無視している。

刑事「、直哉の前で大声を出す。

刑事「（おい！ ドアを開けろ！）」

刑事「（無理やりこじ開けることになる

ぞ！）」

直哉、泣く泣くドアのロックを解除する。

刑事「、ドアを開ける。

刑事「飯田直哉君だな？」

直哉「…はい」

刑事「君を過失致死罪で逮捕する」

直哉「…」

刑事「音楽をとめろ」

直哉、曲をとめる。

刑事「これから君を警察署に連れていく。

我々がパトカーで先導するから、後についてくるように。いいね？」

佐知子、カレーの入った皿を持ってやってくる。

佐知子「直哉！　カレーできたわよ」

佐知子、刑事らを見る。

佐知子「（怪訝そうに）どちら様ですか？」

刑事「こういうもんです」

と佐和子に警察手帳を見せる。

刑事「お宅の息子さんを署まで連行します」

佐知子、狼狽し、皿を落とす。

ガチャン——と皿が割れる。

刑事「（直哉へ）パトカーの後ろについてくるんだぞ」

刑事「、、パトカーへと歩き出す。

佐知子「待ってください！」

刑事「、、足をとめる。

佐和子「そんな、いきなり家に押しかけて、

連れていくなんて…」

刑事「…」

佐和子「学校はどうなるんですか？」

刑事「奥さん、もう学校どころの話じゃないんだよ」

いんだよ」

佐知子「…明日、この子の学校で体育祭があるんです」

刑事「はあ」

佐知子「この子、グラスでリレーの選手に選ばれてて。刑事さん、せめて明日まで待つてもらえないでしょうか」

刑事「…そんなもん無理に決まってるだろう」

○警察署・取調べ室

直哉、取り調べを受けている。

目の前に刑事が座っている。

刑事「カツ丼の入ったビニール袋を手
に、部屋に入ってくる。」

刑事、直哉に声をかける。

刑事「新宿さぼてんでロースかつ丼を買っ

てきた。食べなさい。さっきは夕食を邪魔して悪かったね」

直哉、カツ丼を受け取る。

直哉、カツ丼にがつく。

車内に食う音が響く。

刑事「それ、いくらしたんすか？」

刑事「780円。経費じゃ落ちないから、自腹だな（と笑う）」

刑事「（呆れて）山さんはガキに甘いんすよ」

刑事「（直哉へ）食べながらでいいんだが、質問がある。先生にぶつかったとき、何キロで走ってたか覚えてる？」

直哉「スピードはあんまり出てなかったです」

刑事「嘘こけ！」

刑事「机をバンと叩く。

直哉、反撃でクラクションを鳴らす。

刑事「こいつ…」

刑事「机に置かれた電気スタンドを持って直哉に近づく。

直哉、反撃でハイビームをかます。

刑事「、思わず目を覆う。

刑事「（キレる）このガキッ！」

刑事「、フロントガラスに襲いかかり、
すごい形相で拳を振りあげる。

そのまま映像がストップモーション。

○学校・校門（翌日・朝）

直哉、何台ものパトカーに先導されてや
ってくる。

○警察署・取調べ室（回想）

刑事「、直哉へ、

刑事「「そういえば、明日、学校で体育祭が
あるんだろ？ 出たいんじゃないのか？」

直哉「…はい」

刑事「「不慮の事故だし、逃亡の恐れもない。

明日は体育祭に出なさい。しかし、念の
ため我々も学校にお供させてもらうよ」

○（戻って）学校・校庭

直哉の正面で、体操着姿の生徒たちが組み体操をやっている。

陽向、直哉の前にやってくる。

陽向、ノックする。

直哉、窓を開ける。

陽向「なんかものしい数のパトカーだね」

直哉「…何か用？」

陽向「入っていい？」

直哉「…何で？」

陽向「暑くて倒れそう（と額を押さえる）」

直哉、渋々ドアのロックを解除する。

陽向、ドアを開けて車内に入る。

陽向、ドアをしめる。

陽向「おい。飯田。結局オマワリのいわれるがままか？」

直哉「…」

陽向「私が貸したCD聴かなかったの？」

直哉「…いや、ちょっとなら」

陽向「尾崎を聴けば自由が手に入るのに」

直哉「（ぼそりと）だから、自由って、どうい

うこと？」

陽向「自由は自由だよ」

直哉「いや、わかんないんだけど」

陽向「飯田。一つ教えてあげる。世の中には二種類の自由がある。本当の自由と、大人たちによって仕組まれた自由」

直哉「…仕組まれた自由」

陽向「そして目の前にある自由が本当の自由かどうかを知るには、私たちが自分の胸に手を当ててよく考えなくちゃいけない」

直哉「…」

陽向「じゃ、私この後実況の係あるから」

陽向、ドアを開けて出ていく。

直哉、尾崎のCDを手にする。

直哉、カーオーディオにCDをセットする。

○尾崎豊のライブ映像

1988年。東京ドーム。

ステージ上で尾崎豊（22）がピアノの鍵

盤を弾き、「卒業」を熱唱している。

卒業

作詞作曲 尾崎豊

卒業して いったい何 解ると言うのか
想い出のほかに 何が残ると言うのか
人は誰も 縛られた かよわき子羊ならば
先生あなたは かよわき大人の 代弁者なのか
俺達の 怒り どこへ向うべきなのか
これからは 何が俺を 縛りつけるだろう
あと何度 自分自身 卒業すれば
本当の自分に たどりつけるだろう

仕組まれた自由に 誰も気付かずに
あがいた日々も終る
この支配からの 卒業
闘いからの 卒業

○ 中学校・校庭

陽向の声「ただいまより100メートル走最終
レースを行います。選手のみなさん、頑張
ってください！」

直哉、スタート位置にいる。

加藤（15）、直哉の前にやってくる。

直哉、窓を開ける。

加藤「（爽やかに）君、二年生だよね？」

直哉「あ、はい」

加藤「足、早いんだってね」

直哉「あ、いや」

加藤「三年の加藤。陸上部でキャプテン
やってる。よろしく」

直哉「…あ、はい」

加藤、自分のスタート位置に戻る。

北沢、ピストルを構えている。

北沢の声「位置についてヨーイ」

空砲が鳴る。

生徒ら、走り出す。

直哉、フルスロットルで疾走。

以下、ドラレコの後方映像に切り替わる。
加藤ら生徒、直哉に大きく引き離されながらも懸命に走っている。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

「♪仕組まれた自由に誰も気づかずに」
ドラレコの後方映像、おわり。

× × ×

陽向の声「二年生による騎馬戦です。選手のみなさん、頑張ってください！」

直哉のボンネット上に男子ーが乗っている。

対戦相手の男子たち、決死の覚悟で直哉に立ち向かってゆく。

対戦相手、容赦なく直哉に跳ね飛ばされる。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

「♪仕組まれた自由に誰も気づかずに」

○同・保健室

直哉のフロントガラスにヒビが入っている。

保健の先生、手当てをしている。

正面に校庭が見える。

生徒らが綱引きをしている。

と校庭に若い少年が現れる。

少年、直哉を指さす。

少年「（何か叫ぶ）」

○（フラッシュバック）幼稚園

入園式で、男の子「、幼い直哉を指さす。

男の子「（何か叫ぶ）」

×

×

×

砂場で、女の子「、直哉を指さす。

女の子「（何か叫ぶ）」

×

×

×

教室で、男の子ゑ、直哉を指さす。

男の子ゑ「何か叫ぶ」

×

×

×

公園で、女の子ゑ、直哉を指さす。

女の子ゑ「何か叫ぶ」

○（戻って）学校・保健室

直哉「（呻く）うっ…」

保健の先生、直哉の様子を見て、

保健の先生「どした？」

直哉「…」

○同・校庭

直哉のフロントガラスのひび、きれいに

直っている。

陽向の声「最後の種目は学年対抗リレーです。

選手みなさん、頑張ってください！」

直哉、アンカーとして校庭の真ん中に待機している。

×

×

×

陽向の声「現在トップは三年△組。さあアンカーにバトンが渡った。アンカーを務めるのは陸上部キャプテン加藤くんです！」

直哉、スタート位置に着く。

加藤、走っている。

陽向の声「加藤くん。トップを独走です！」

直哉、バトンを受け取る。

直哉、エンジンをふかして走り出す。

陽向の声「さあ！ 加藤くんと飯田くんのアンカー勝負になりました！」

直哉、爆走する。

直哉、加藤に迫る。

加藤、チラチラと後ろを振り返りながら走っている。

直哉、加藤をあつという間に追い抜く。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

「♪仕組みまれた自由に誰も気づかずに」

以下、ドラレコの後方映像に切り替わる。

加藤、絶望な表情を浮かべる。

加藤、立ちどまり、地面に崩れ落ちる。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

「♪あがいた日々も終わる」

後方映像終わり。

直哉、独走している。

突然、直哉の目の前に先ほどの幼い少年が現れる。

○（フラッシュバック）保健室

幼い少年、窓の外から直哉を指さす。

少年「（叫ぶ）ブーブーだ！」

○テロップ画面

辞書風に以下の文字が出る。

「ブーブー 自動車の幼児語」

○（戻って）学校・校庭

直哉、急ブレーキを踏む。

少年の姿は消えている。

直哉「（声を震わせ）…車？」

○（フラッシュバック）幼稚園

入園式で、男の子「、幼い直哉を指さす。

男の子「（叫ぶ）ブーブーだ！」

×

×

×

砂場で、女の子「、直哉を指さす。

女の子「（叫ぶ）ブーブーだ！」

×

×

×

教室で、男の子「、直哉を指さす。

男の子「（叫ぶ）ブーブーだ！」

×

×

×

公園で、女の子に、直哉を指さす。

女の子に「叫ぶ」ブーブーだ！」

○（戻って）学校・校庭

直哉「（声を震わせ）：俺が：車に乗っているから？」

○（フラッシュバック）中学校

北沢「飯田。お前にリレーの選手を任せることにした。嬉しいか？」

直哉「：はい」

×

×

×

廊下を猛スピードで走る直哉、今井と衝突する。

今井、吹き飛ぶ。

×

○（戻って）校庭

直哉、クラクションを鳴らす。

佐知子や保護者ら、独走する直哉へ拍手を送っている。

「♪この支配からの卒業」

刑事一と二、直哉を見張っている。

尾崎の「卒業」の一節が流れる。

「♪ 闘いからの卒業」

直哉、ゴールテープを切る。

直哉、止まることなく、そのまま校門へと走り去っていく。

すぐさまサイレンが鳴り響く。

以下、ドラレコの後方映像に切り替わる。
すごい数のパトカーが直哉を追走する。
さらにその後ろを、マイクを持った陽向が追いかける。

陽向「（叫ぶ）飯田、卒業おめでとう！！！！おめでとーーーーー！！！！」

ドラレコの後方映像、おわり。

○道

直哉、カーオーディオをかける。

車内に尾崎の「卒業」が流れ出して――

（おわり）

出典

『ALL TIME BEST』初回生産限定盤 DVD
(Sony Music' 2013 年発売) 収録「I LOVE
YOU」(1984 年 12 月 3 日 秋田市文化会館・
FIRST LIVE CONCERT TOUR)

LIVE CORE IN TOKYO DOME 1988・9・12
1988 年 9 月 12 日・東京ドーム公演

公式 YouTube

<https://youtu.be/3R2Bejq2XQo?si=IQnSiWgGdIj7MS54>